

震災の記憶・教訓の伝承について

【第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

(1) 震災の記憶・教訓の伝承の理念について

「何のために」伝承するのか？

- ・1万人超の死者を出した地震と津波である。
- ・過去にも同等の津波があったこと。
- ・南海トラフ地震など大規模地震が予見されていること。

- ・県内での震災を経験していない人が増えてきている。
- ・時間の経過により、情報発信が浸透しづらくなっている。
- ・震災等の記憶が薄れていってしまう。

これまでの災害・震災を受けた伝承を踏まえ、宮城県として「何のために」伝承するのか。単なる震災時の対応や復旧・復興過程の記録ではなく、記憶・教訓の伝承を行っていくための「理念・基本的な考え方」を明示する必要がある。

【第1回有識者会議】

○記憶伝承について

各委員の所見を基に教訓伝承のあり方の理念を言語化

- ・風化や浸透しにくくなっている現状をどう突破し文化を醸成するか
- ・地震津波という自然現象が地域社会に及ぼした影響を残すことが重要
- ・防災文化が最終的に我々の究極的な目的
- ・宮城モデルの構築＝さまざまな主体の統合による強い発進力
- ・一体化となった方向性・提言
- ・長期的に受け手と発信者の変化を考慮すべき
- ・自然災害に立ち向かう組織・仕組みを次世代に残す
- ・地域の中での伝承、地域外への発信

震災・津波による被害を最小化・回復力を最大化できる暮らしを地域の文化にする？

(2) 今後の記憶・教訓伝承のあり方検討の進め方(検討フレーム)

県全体としての
震災記憶・教訓伝承に
取り組む理念

あり方検討
(総論)

理念の実現に向けた具体的な目標

理念(目標)実現に向けた取組

誰に	何を	どのように	誰が(現状)
県内外の市民へ	個人の体験を	語りによって 遺構を活用して	語り部
次世代に	震災の教訓を	教育活動の一環として	防災教育
県民向けに	自分の生活を守る	身近な遺構を活用して	
県外の方向けに	県外の人たちに必要 な情報を	語りによって ワークショップや体験を 通じて	むすび塾
地域の方々	どう備えるか	意識付け	地域防災活動

県全体の
伝承を牽引
する組織？

(市町会議での検討→あり方検討各論)

宮城県における記憶・教訓伝承のあり方(宮城モデル?)

(3) 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について

①「誰に」伝承するのか？

(ア) 地域に住んでいる人

(a) 地域住民

【課題】

遺族や震災被害を経験した人とそれ以外の方との
温度差がある

個人, 団体, 企業, 行政の関わり方によって取組
姿勢に温度差がある

(b) 次世代

【課題】

震災を経験していない子供たちが増えてきており,
伝えていけるか

(イ) 地域外の人

(a) 来訪した方

【課題】

来訪者が知りたいことをきちんと把握できているか

(b) 他地域に住んでいる方

【課題】

時間の経過とともに, 他地域の方の関心が低く
なっている



地域にどのような
仕組みが必要か



ニーズに合った
対応をどうするか

(3) 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について

②「何を」伝承するのか？

(ア) 記録・情報

- ・震災・復旧復興に関する情報・取組

(イ) 記憶・経験

- ・震災発災時に、何が起こったのか
- ・震災を経験した人の経験の伝承

(ウ) 知識・教訓

- ・「地震津波」という自然現象と、それが地域社会に及ぼした影響
- ・自然災害に対する意識付け・自然災害に立ち向かう組織・仕組み
- ・発災時の対応状況
- ・発災からの復旧・復興の状況

(3) 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について

③「どのようにして」伝承するのか？

(ア) 伝承に当たっての視点

(a) 情報の共有・発信

キーワード: ワンストップ, ネットワーク

取組: アーカイブ, データベース

(b) 体制づくり

a) 地域外からの受入体制

キーワード: 見えるものと見えないもの, 受け手側と伝え手側, ジオパーク

取組: 修学旅行や観光客の受け入れ, 受け手と伝え手の変化

b) 組織づくり

キーワード: 中間支援組織

取組: 取組を発信・マネジメントする組織

(c) 地域での取組

キーワード: 日常への溶け込み, 忘れても良いもの, 防災文化

取組: 震災遺構, 自主防災組織連絡協議会, 当たり前への対応・仕組み, 文化醸成

(d) 教育・育成

キーワード: 震災を知らない子ども, 語り部等の担い手の育成

取組: 防災教育, 語り部, 新聞発行

(3) 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について

③「どのようにして」伝承するのか？

(イ) 伝承の取組

【個別の取組】

(a) 震災遺構・伝承施設

- ・各市町での施設整備・運営，石巻南浜津波復興記念公園(国営追悼・記念施設)の整備

(b) 語り部・アーカイブ

- ・語り部活動，今後の担い手確保・育成
- ・各市町のアーカイブ整備，マスコミ・大学等でのアーカイブ，「東日本大震災アーカイブ宮城」
⇒一元的・一体的な情報発信手法

【取組のパッケージ】

(c) 防災教育・観光・視察研修

- ・教材作成，教員養成・研修
- ・被災地視察，ボランティア，地域住民との交流
- ・震災遺構という目に見えるものと，遺構に立った時にどういうものを得られるのかという，見えないものとの融合

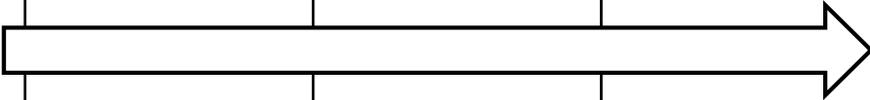
(d) 地域活動

- ・自主防災組織連絡協議会等の地域での活動

【連携・ネットワーク】

- ・上記の取組の連携・ネットワーク化，ネットワーク・マネジメント機能

(4) 今後の記憶・教訓伝承のあり方検討の進め方(スケジュール)

8月	10月	11月	12月	1月	3月
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
発足 各委員所見	総論(理念) 枠組整理				まとめ
	各論議論	<ul style="list-style-type: none"> ・課題整理 ・組み合わせ (防災教育・ 観光・地域 活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題整理 ・組み合わせ (防災教育・ 観光・地域 活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題整理 ・組織・ネット ワーク 	